

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2018 年

No. 88

2018年7月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2018 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「SEE(Sexuality Education Empowerment)」

2018公開講座・報告 1

思いこみのめがね④ 9

性教育の現場を訪ねて⑩ 10

多様な性のゆくえ⑮ 12

今月のブックガイド 13

JASEインフォメーション 14

● 「SEE (Sexuality Education Empowerment)」 2018 公開講座・報告

トランスジェンダーの歴史

2018 年 4 月 19 日(木曜日) 午後 6 時 30 分より、大阪・梅田ガクトホールで上記のテーマで「SEE (Sexuality Education Empowerment) 2018 公開講座」が開催された。講師は、カナダ・ヴィクトリア大学のアーロン・デヴォー教授(社会学)。講演後、土肥いつき氏の司会で参加者との質疑応答も活発に行われた。ここでは、講演内容を中心に報告する。

主催：SEE (Sexuality Education Empowerment)

司会(東優子大阪府立大学教授・SEE 共同代表)今日は、カナダ・ヴィクトリア大学からアーロン・デヴォー教授に来ていただいています。社会学の専門家で、トランスジェンダーに関する研究を 30 年以上続けておられます。本日お話しいただきますのは、教授が主宰しておられる Chair in Transgender Studies の活動内容に関するものなのですが、この Chair in という言い回しが独特なので確認したところ、「トランスジェンダー・スタディーズの主宰者」と肩書であり、プロジェクト(事業)名でもあり、皆が集う「場」を意味する言葉でもある、とのことでした。

では、よろしくお願い致します。

はじめに

「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in

Transgender Studies) の活動は多岐にわたり、客員研究者・ゲストスピーカーの招聘、奨学金・助成金の支給、院生によるコロキウム、それから映画上映会など、アート&カルチャーに関するイベント、映画上映会、交流会などを企画・主催しています。

活動の 2 本柱ともいえるのが、① Moving Trans History Forward (トランスの歴史を前進させるための会議) と題した隔年会議の開催と、② トランスジェンダー・アーカイブです。

隔年会議「トランスの歴史を前進させるための会議」について

2014 年、出席者 85 名で始まったのがこの隔年会議です。初回からヴィクトリア大学の総長が歓迎の挨拶に立ち、第 2 回(2016 年)と第 3 回(2018 年)でも大学

の重役が顔を揃えたことから、この会議が研究会レベルのものではないことがわかりいただけるかと思います。

とくに今回の来日直前に開催された第3回(2018年)では、自治体の首長、政治家など、さまざまなVIPも駆けつけ、祝辞を述べてくれました。その中には、ビデオメッセージではありましたがカナダの首相特別顧問も含まれます。

参加者数は、当初の85名を大きく上回る600名超となりました。事前登録者数だけで330名です。11の異なる国から参加があり、登壇者の数だけで100を超えました。

基調講演をしてくださった著名人を何人かご紹介します。



アーロン・デヴォー教授

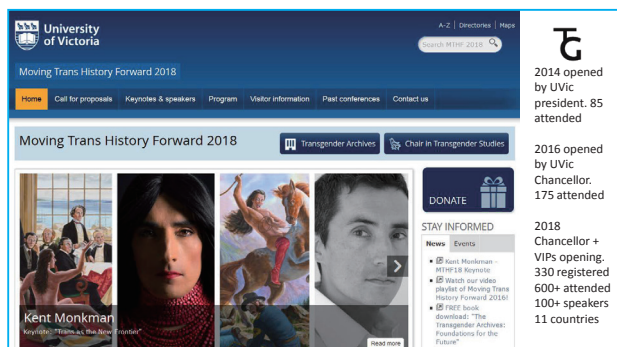


図1

ケント・モンクマン(図1の左端)はカナダ先住民で、政治的問題について雄弁に語ることで有名なアーティストです。彼は自身を「トゥースピリット(Two-Spirit)」であると自己紹介したのですが、これはカナダ先住民の間でトランスジェンダーやゲイを意味する言葉です。

「Tは無音ではない(The “T” is not Silent)」という演題で基調講演を行ったアンドレア・ジェンキンス(図2)は、2017年の全米地方選で黒人のトランスジェンダーとして史上初の当選を果たした政治家です(注:同選挙では、8名のトランスジェンダー候補が当選し、大きな話題になった。ミネソタ州ミネアポリス市議選では、アンドレア・ジェンキンスとトランスジェンダーの黒人男性が共に当選した結果、同市の市議員13人のうち、2人をトランスジェンダーが占



図2

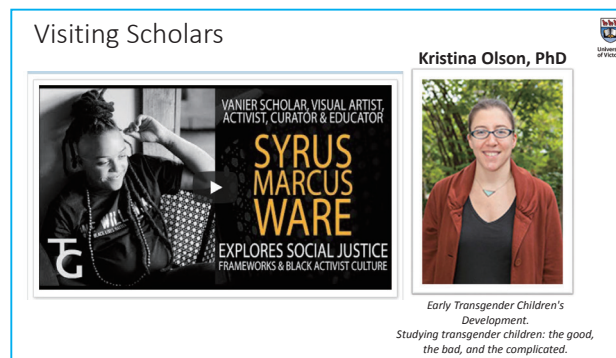


図3

めることになった)。

「世代から世代へ(From Generation to Generation)」をテーマとする今回の会議では、多くの若い世代が登壇し、研究発表や講演をしてくれました。とくに「トランスジェンダー・スタディーズ」の客員研究員でもあるクリスティーナ・オールセン(図3右)が行っている「トランスジェンダーの子どもたちの早期における発達」に関する研究は、今後のトランスの子どもたちに対する社会のまなざしを大きく変える可能性を秘めた、非常に重要なものです。

さきほどもご紹介しましたように、私たちは客員研究員の招聘事業の他にも、奨学金・助成金の給付などを通じた若者支援をしており、院生コロキウム(下表参照)の実現にも貢献しています。院生たちからは「この奨学金制度が存在することがすでに小さな奇跡だ」などの言葉が寄せられています。

院生コロキウムで発表された学生たちの研究テーマ(例)

- セクシュアライズされた親密なパートナーからの暴力経験をLGBTQやジェンダー・フルイドの若者がどのように捉えているか
- 歴史の修正: 異性装(CD)、ノン・バイナリーなジェンダー・アイデンティティ、ファンタジア・フェア
- トランス男性の下半身手術後のセクシュアル・ヘ

ルス（性の健康）

- ・トランスの子どもたちと市民権に係るケア言説
- ・トランス・フォーミング（性別移行）中の女性のためのシェルター：トランス女性のための安全で利用可能なトランジション・ハウスについて
- ・ネット上で若者はどのようにジェンダーを語っているか
- ・トランスの大先輩（高齢者）たちの生涯を通じたサバイバル：その成功に寄与した要因とは何か

こちらの写真（図4）は、ケイト・ボーンスタインです。作家として、パフォーマーとして20～35年という長きにわたって幅広く活動されている有名人で、この日は「男性、女性、それ以外の私達（On Men, Women, and the Rest of Us）」というパフォーマンスをしてくださいました。



図4

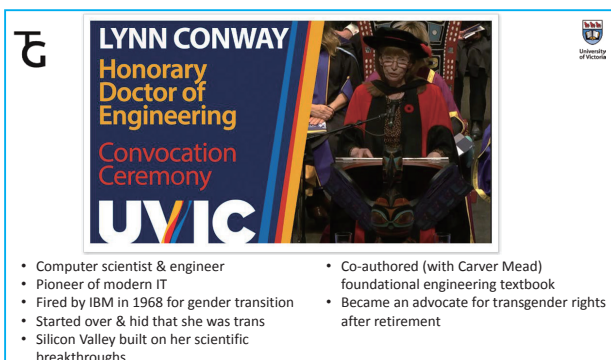


図5

トランスジェンダーに関する映画も上映しました。上映した映画の脚本と監督を務めたトランス女性がビデオで参加してくれました。

そして、名誉博士号の授与式もありました。受賞したのは、リン・コンウェイ（図5）です。

リン・コンウェイは、もともと男性の情報工学のエンジニアであり、計算機科学者で、1960年代からITの世界で重要な業績を残してきた著名人でした（注：カーバー・ミードとの共同でVLSI設計の自動化に関する

共同研究を行い、著書『超LSIシステム入門』なども出版している。シリコンバレーの発展は、画期的とされる彼らの発明によるところが大きいとも言われる）。

1960年代から男性としてIBMのIT技術者として重要な業績を残しつつも、1968年に性別移行（トランジション）をしたことが理由で、IBMから解雇され、再就職後は過去をひた隠しに隠して女性として働いてきました。

定年退職後に初めてトランス女性であることをカムアウトし、現在は、トランスジェンダーの権利擁護を積極的に行っておられる方です。そんな彼女の功績をたたえる名誉博士号が授与されました。

「トランスジェンダー・スタディーズ」は、いろいろな楽しいソーシャル・イベントも主催しています。これは私の一番のお気に入りで、「ナチョス&ドリンク」でおしゃべりを愉しむ会（図6）ですね。こうしたイベントは月に1回程度の頻度で開催され、さまざまな人たちが大学を訪れ、楽しく交流する場を提供しています。

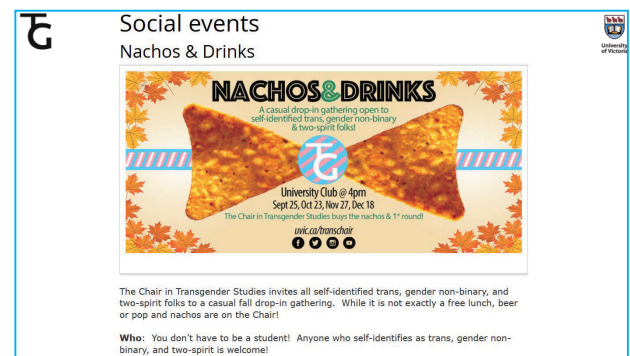


図6

トランスジェンダーに関してこの規模でこのような活動をしているものは、世界中で私達の「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in Transgender Studies) だけです。ヴィクトリア大学は場の提供というかたちで支援してくれていますが、2016年1月にスタートしたこの活動を支えているのは、もっぱら個人の寄付行為です。

トランスジェンダー・アーカイブ

「トランスジェンダー・スタディーズ」(Chair in Transgender Studies) の重要な柱のもうひとつが、トランスジェンダー・アーカイブです。私は、かねてよりトランスジェンダー・アーカイブの研究代表を務



講演の様子

め、文献・資料収集に携わってきたのですが、大学のプロジェクトとして始まって以降も学術顧問という立場で関わり続けています。

トランスジェンダー・アーカイブの正式な立ち上げは2011年で、ヴィクトリア大学図書館内にそのスペースがあります。

一般に、歴史的に重要な記録を保存・活用し、未来に伝達することを「アーカイブ」と言いますが、私たちのアーカイブにはトランスジェンダー・アクティビズムに関する貴重な資料・文献の原本、調査研究の原本が多く収集保管されているので、歴史研究家などの利用もあります。

ここに一冊だけしかないのですが、これがトランスジェンダー・アーカイブのパムフレットです。ウェブサイトで全文ダウンロード (https://www.uvic.ca/library/about/ul/publications/documents/Devor_Foundations_2016_2ndEd.pdf) できるようになっていますのでアクセスしてください。ウェブサイトの別ページでは、資料・文献の検索もできます。

トランスジェンダー・アーカイブには、125年分の研究記録が保管されています。5大陸20カ国、13言語を網羅（オーストラリア、ベルギー、カナダ、中国、デンマーク、イギリス、フィンランド、フランス、ドイツ、日本、オランダ、ニュージーランド、北アイルランド、ノルウェー、ロシア、スコットランド、南アフリカ、スウェーデン、タイ、米国）しています。

18カ国の書籍、ニュースレター&雑誌、カストリ雑誌／パルプ・フィクション、パムフレット、各種団体の記録、個人的な書物（論文含む）、新聞記事の切り抜き、裁判記録、音声記録、映画、写真、エロチカ、芸術作品の原作、エフェメラ（はがき、チラシなど）

など、その種類もさまざまです。

アーカイブを専門とする人は、所蔵物を全部一直線に並べたらどれくらいの距離になるかという例え方をするそうなので、私たちもやってみましたら、直線162mになりました。

とくに58年にわたるトランスアクティビズムの記録は必見です。世界でこれだけの量を集めているものは世界でただ一つ、ここだけです。日本からのものもあります。これは、1950年代、1980年代に日本で出版されたものです（図7・図8）。

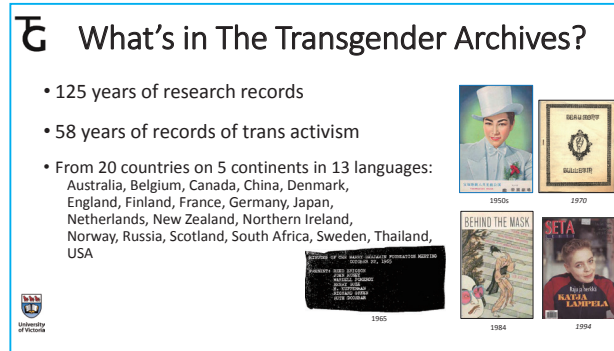


図7

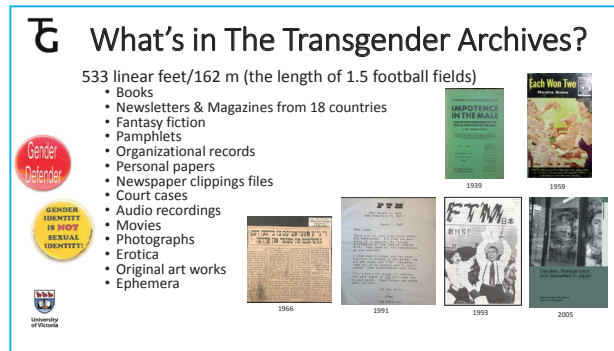


図8

アーカイブを支えているのは、寄付行為です。小さい寄附から大きい寄附まで、さまざまなのですが、一度にダンボール100箱、120箱、170箱という単位で寄付をいただいた代表的なコレクション（リキ・スウィン研究所、リード・エリクソン&エリクソン教育財団、北アイルランド・アルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ、アイヤナ・マラクル）を次にご紹介します。

◆リキ・スウィン研究所のコレクション

リキ・スウィン研究所から届いたダンボールには、膨大な資料・文献・書籍が入っていたわけですが、とくに定期刊行物については、世界中のニュースレターや定期刊行物など、実に482種類をリキは集めてお

Rikki Swin Collections

- Extensive newsletters and other periodicals
- Large collection of books
- Fantasia Fair documents 1974-2001
- Ari Kane Collection
- International Foundation for Gender Education (IFGE) organizational records
- Virginia Prince Collection
- Photos, audio & video tapes



Rikki Swin & Kirdo

図 9

Rikki Swin Collections

- 482 different newsletters and periodicals
 - Educational TV Channel Newsletter, San Francisco, USA
 - Hose & Heels, Los Angeles, USA
 - Hawaii Transgender Outreach (HTGO) Newsletter
 - Gendys Journal, London, UK
 - Belfast Butterfly Club, Northern Ireland
 - The Seahorse Society, New South Wales, Australia
 - FTM, Tokyo, Japan
 - Kuin (Queen), Japan
 - And many more....
- Hundreds of books
 - Original photos & negatives for Harry Benjamin's *Transsexual Phenomenon* (1966)





図 10

りました (図 9)。

雑誌は、英国のもの、米国のもの、ハワイ、オーストラリア、そして日本からの『クィーン』という雑誌もコレクションの中に入っております (図 10)。その上に写っているのは、トランスセクシュアルに関する世界初の教科書ともいえる、ハリー・ベンジャミン著『Transsexual Phenomenon』(1966) です。初版本が所蔵されているばかりか、出版に使用された写真のオリジナルやネガまでもが保管されています。

リキ・スウィンのコレクションには、「ファンタジアフェア」に関する資料 (1974～2001 年) もありました。これは、1 週間にわたってマサチューセッツ州のプロヴィンスタウンで開かれるトランスジェンダーの大きなお祭りのことです。1974 年に始まったこのイベントは、トランスジェンダーにかかわるものとしては西洋で最も古く、最も長く続いているイベントです。2001 年以降の記録についても、今後追加していく目処がたっています。

その「ファンタジアフェア」を始めたひとりであるアリアドネ・ケイン (図 11) に関する資料もあります。1936 年生まれの 82 歳ですが、つい 2 週間前に終わった会議 (Moving Trans History Forward) にも来ていただきました。「ファンタジアフェア」を始めただけでなく、そのほかにもいろいろな団体を立ち上

Ariadne Kane (1936 -)

- Extensive public speaking and educational work on behalf of crossdressers and transsexuals
- Founder Human Outreach Institute, 1975
- One of the founders of Fantasia Fair, 1974
 - Continued as a leader until 1998 (24 yrs)
- Founder Theseus Counselling Services
- Founder *Journal of Gender Studies*



図 11

Virginia Prince (1913-2009)

- A founder of modern transgender activism
- Accidentally became public face of crossdressing in the US
 - 1961. convicted of sending obscene material through the mail. On probation, Prince was liable to be imprisoned if caught cross-dressed. Given permission for public cross-dressing for educational purposes.
- Coined the term "transgenderist"




図 12

げ、教育活動に従事してきた方なので、そうした活動に関連した資料・文献がいろいろ残っています。

リキ・スウィン・コレクションには、モダン・トランスジェンダー・アクティビズムのバイオニアであるヴァージニア・プリンス (図 12) に関するものもたくさん入っています。彼女はアクシデントでアクティビストになったようなものです。というのも、彼女は 1960 年代に『Transvestia』(図 13) という雑誌を創刊し、異性装者 (クロス・ドレッサー) の業界の有名人だったわけですが、猥褻物を郵送した罪で執行猶予付きの有罪になったんですね。当時の米国政府は、たとえ私信であっても、性的な事柄を書いて郵便でやりとりすることを禁止していました。執行猶予中の 5 年間は異性装することが禁じられ、した場合は収監されることになっていたのですが、弁護士の交渉により、

Virginia Prince (1913-2009)

- 1960 started *Transvestia*.
 - 111 issues 1960-1986
- 1961 started crossdressers' Heels & Hose Club
- Awards, trophies, photos, correspondence, articles, news clippings
- Chevalier Publications
 - *The Transvestite and His Wife* (1967)
 - *How To Be a Woman Though Male* (1971)
 - *Understanding Crossdressing* (1987)
 - And others






図 13

教育的目的の講演といった活動の時だけは異性装する許可が与えられたのでした。

雑誌『Transvestia』は1986年まで続き、全部で111号が刊行されています。当時はとても貴重な雑誌だったと言えます。途中、サイズがいろいろ変わったりしているのですが、1960年に出版された創刊号は、とても小さなサイズでつくられていました。当時の米国で異性装することは、罪深く、恥さらしなことであり、何より犯罪化されていたのです。そこで、仲間がこの雑誌をポケットに忍ばせ、隠し持ち歩けるようにという配慮から、非常に小さなサイズでつくられたのでした。

彼女は、いろいろな新語を造語したことでも知られています。現在、「トランスジェンダー」という言葉が使われていますが、多くの人々が、この「トランスジェンダー」という言葉はヴァージニア・プリンスが提唱した「トランスジェンダリスト」が発展したものだと考えています。「生みの親」である彼女自身は、自分がつくった言葉が「トランスジェンダー」にすり替わっていったことについては、好ましく思っていなかった、喜んでいなかったという話もありますが……。その当時、英語圏には「トランスセクシュアル（性転換者）」と「トランスベスタイト（服装倒錯者）」という2つの専門用語しか存在していませんでした。ヴァージニア・プリンスは、（ときどき、パートタイムで異性装を愉しむ人たちとは違って）フルタイムで女性として生活していたわけですが、性器手術をすることには関心を持っておりませんでした。その彼女にとっては、この専門用語のどちらも、自分を表現するには不適切だと感じられたのです。自分は（手術によって性器や身体を変えたい）トランスセクシュアルでもなければ、パートタイムで異性装をするトランスベスタイトでもないということで、自ら「トランスジェンダリスト」という言葉を造語したのです。

◆リード・エリクソン・コレクション

リード・エリクソンは、1964年から1984年まで、エリクソン教育財団を運営していました。エリクソン教育財団の活動領域は大きくわけて3つあって、1つは同性愛、もう1つがトランスセクシュアリズム、もう1つがニューエイジ（イルカとのコミュニケーションなど）でした（図14）。

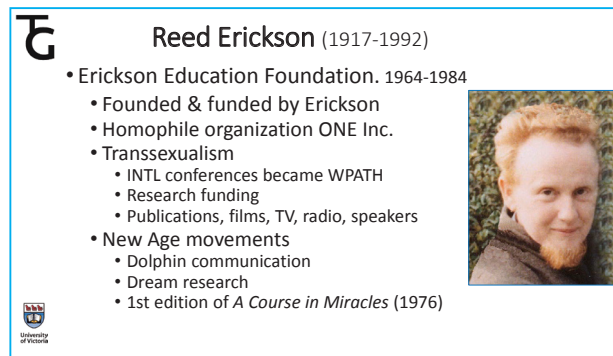


図 14

トランスセクシュアリズムについては、国際学会のスポンサーもしていました。現在 WPATH（World Professional Association for Transgender Health）という名称になった国際学会がありますが、これが HBGDA（Harry Benjamin International Gender Dysphoria Association）だった当時の第1回から第3回までの会議は、このエリクソンが私財を投げ打って開催をし、運営されていました。

助成金制度もあり、トランスジェンダーに関する研究領域には、同財団から援助を受けた研究者も多くいます。その他にも、出版、映像制作、テレビ、ラジオ、講演会など、幅広い活動を展開していました。雑誌や新聞記事の切り抜きの収集もしており、そのコレクションは1960年代から1980年代までが網羅されています。

彼が発行していたニュースレターには、世界中のニュース、調査研究の成果などが紹介されているのですが、トランスジェンダーなどに関する情報を入手するのが難しかった時代には大変貴重な情報源だったことでしょう。

1972年のニュースレター（図15）には、1971年に開催された第2回トランスジェンダー会議で発表したという日本人のドクター穴田（穴田秀男）の記事も載っています（注：穴田英男は医事法学者で、1976

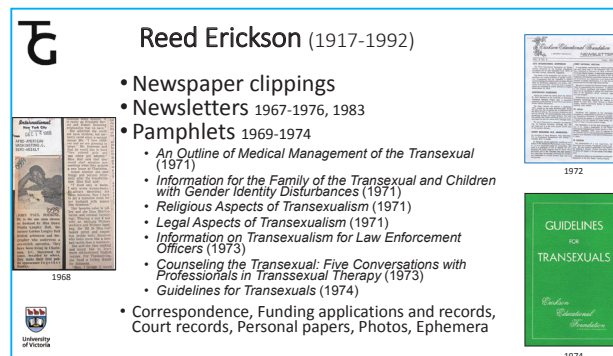


図 15

年にメディカルトリビューン社から『性を変えられるか：性転換の医学的解明』を出版している)。

1971年からのパンフレット類もたくさん収集されています。法律や医療を解説したパンフレット類というのは、当時の様子を知ることのできる貴重な情報源です。非常に資料価値が高いものなので、現在も、個人所有の、あるいは団体が保管してきたものの寄贈を募っているところです。リード・エリクソンのニューズレターには、これらのパンフレットのの一部が日本語にも翻訳されていると書かれてあります。

◆北アイルランド・アルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ

リチャード・エキンスのコレクションとも言うべきものとして、北アイルランドのアルスター大学トランスジェンダー・アーカイブ(図16)があります。

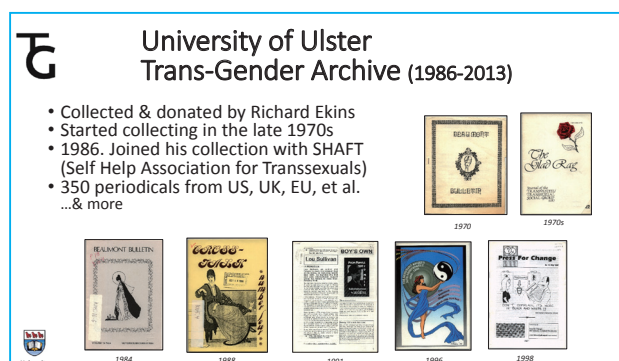


図 16

SHAFT(トランスセクシュアルのためのセルフ・ヘルプ協会)が1970年代に始めた資料・文献収集を1986年にリチャード・エキンスが引き継いだものです。米国・英国・欧州をはじめとする、いろいろなところで発行されてきた定期刊行物350種類ぐらいが所蔵されておりまして、いくつかの例をここに出しておきました。一番古い書籍は120年以上前のもので、イギリスやヨーロッパの30年以上のトランスの歴史をカバーする資料・文献がいろいろと所蔵されています。1893年に出版されたフォン・クラフト＝エビングの『Psychopathia Sexualis』の原本などもあって、歴史的な価値が非常に高いです。この時代は非常に重要な時期であると言えます。というのも、1800年代のそれまでは、同性愛と、現在私たちが言うところのトランスジェンダーには区別がなく、同一視されていました。この頃から、専門家の言説が変り、同性愛とトランスジェンダーは違うものとして扱われるようになって

ていったのでした。

1920年代には、女装を理由に逮捕された人たちの記事がたくさん出るようになり、個人がそうした新聞の切り抜きを大切に保管していたものも所蔵されています。なぜこうした切り抜きが保存されてきたかといえば、当時のトランスジェンダーの人々は、「こんな存在は、世界で自分ひとりだけに違いない」と思い悩んでいたわけですね。そんな時に、新聞で誰かが逮捕されたという、喜ばしくない記事であっても、それを見て彼らは喜んだわけです。「あ、私だけじゃなかった」と。だからこそ、逮捕の記事を切り抜いて大事に保管していたわけですね。それが時を超え、100年後の現在もこうしたコレクションとして大切に保管されているのです。語り継がれていくということは、私たちにとってはもちろんのこと、当時の彼らにとっても重要な意味をもつだろうと思います。彼らが確かに存在したという証なのですから。

あとは、私信であったり、パルプ・フィクション(カストリ雑誌)、個人の写真、はがき、その他さまざまなメモなどが所蔵されています(図17)。



図 17

下の左端に写っているのは、トゥーラという芸名で知られる有名なモデルです。本名はキャロライン・コシーと言います。

そのとなりがケイト・ボーンスタイン。冒頭の会議でパフォーマンスをした人です。何歳ぐらいの時の写真でしょうか、若いですね。この写真を撮った人も、トランスジェンダーの写真家で、最近亡くなられたのですけれども、ホリー・ボズウェルという有名なトランスジェンダーのリーダーです。

上の方には、ハリー・ベンジャミンの直筆のサインがあります。先ほど申しあげましたように、所蔵されている資料には、さまざまな原本があるという一例です。

◆アイヤナ・マラクルコレクション

最後にご紹介したいのが、アイヤナ・マラクル（図18）のコレクションです。ほかのコレクションに比べますと、このアイヤナのコレクションは小さいのですけれども、小さくても、カナダ先住民のトランスジェンダーに関するコレクションとして非常に重要なものです。

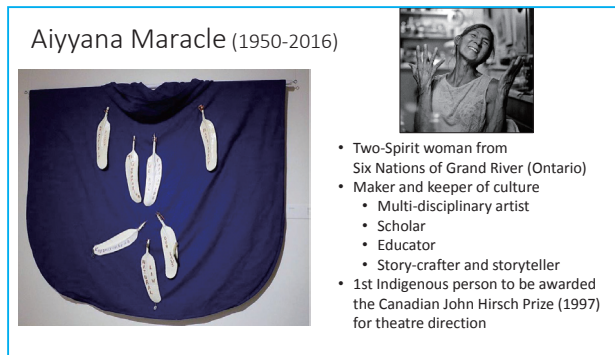


図 18

彼女は、カナダ・オンタリオ州に位置する Six Nations of Grand River（グランド・リバー）出身のトランスピリット（Two-Spirit）の女性です。文化をつくり、保存するアーティストであり、学者・教育者・語り部です。舞台監督としての功績により、カナダ先住民としては初めて、カナダ・ジョン・ヒルシュ賞を受賞（1997）しています。

講演後、休憩をはさんで、コメンテーターの土肥いつきさんの司会で、50 余名の参加者との質疑応答が行われた。

土肥いつきさんのコメント

アーロンさんの話を聞いて、日本のトランスジェンダーをめぐる状況を振り返る時、3つの分断があると思いました。

ひとつ目は、「他のマイノリティ」との分断です。「Moving Trans History Forward」で述べられたカナダ先住民のモンクマンさんや黒人のジェンキンスさんのように、日本においても部落や在日あるいや障害者のトランスジェンダーといったダブルマイノリティは、当然おられます。

しかし、ごく一部の例（『解放教育 特集・LGBT』2011.1 や『部落解放 特集・多様な性を生きる人々』



コメントする土肥いつきさん

2015.7 など）を除いて語られてきませんでした。それは、特例法が論議される時、その対象として日本国籍者に限定してきたことからわかります。

ふたつ目は、世代間の分断です。ヌードモデルのトゥーラさんの話を聞いた時、とっさに特例法前夜に戸籍の訂正を求めてセルフヌード展を開催された藤村梨沙さんのことを思い出しました。でも、あの頃の人々を覚えている人はほとんどいないのではないかと思います。そういう歴史や人を「なかったこと」にしてはならないと思いました。

そして、3つ目は、社会運動と研究の分断です。国内外を問わず、トランスジェンダースタディーズには豊富な蓄積があります。しかし、現在のトランスジェンダーをめぐる運動がこれらの研究の成果からどれほどのことを学んでいるのでしょうか。これは、先に述べた世代間の分断ともつながることだと思います。

あらためて、これらの分断をつなぎあわせていくことの重要性を感じたセミナーでした。

主催：SEE（Sexuality Education Empowerment）

協賛：日本性教育協会（JASE）

後援・共催：関西 GID ネットワーク・大阪府立大学学生センター・大阪府立大学女性学研究センター・ほか

★SEE 性教育アカデミーは、「関西性教育研修セミナー」として各種講演・海外スタディツアーを企画してきた10年の実績を活かし、より系統だった性教育の学びの場を提供していくことを目的として、第1回目の「SEE 性教育アカデミー2018」を7月28・29日に開講することになりました（本紙6月号 No.87 を参照）。SEE がモデルとするのは、ユネスコなど国連諸機関や国際学会が推奨する「包括的なセクシュアリティ教育」（CSE）です。

思いこみの めがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

私は茨城県の出身です。のどかな田舎町、4人兄弟の長男として生まれました。そして母と父がいます。60歳を過ぎた母は、外に仕事に出てよく働いています。70歳を過ぎた父は、仕事を退職して実家の畑で家庭菜園を楽しんでいます。茨城生まれの茨城育ちの父。頑固一徹。長男の私の言うことも、まあ素直に聞いてくれることはありませんでした。そんな父に自分がゲイであることをカミングアウトしたのは、今から約7年前。2011年12月31日の大晦日でした。

当時私は、東京ではなくとある地方で小学校の先生をしていました。職場やプライベートで、信頼できる人に少しずつカミングアウトをしていました。また、兄弟へのカミングアウトも済ませていました。地方生活はとても充実していたので住み続けていたかったのですが、東京に戻ることを決めました。理由は、東京でゲイとしての生活を楽しみたかったからです。ゲイの友達と飲みに行ったり、旅行に出かけたりすることに憧れていました。

2011年12月31日。私は実家で、父と母の3人で紅白歌合戦を観ていました。兄弟はいません。カミングアウトのチャンスが到来しました。私は両親に「報告したいことが2つあるんだけど」と切り出しました。なんだなんだと両親。「4月から東京の小学校に戻ってくることになったんだ」と伝え、父も母も「それはよかった。長男が実家の近くにいるのは何かと安心だ」と喜んでくれました。私は続けて「実はもう1つ報告があるんだ」と伝え、両親は身を乗り出しました。両親の顔は明らかに「ついにシゲも結婚か!!」ということを期待している顔でした。「実は俺はゲイで……男性が好きなんだ。付き合うパートナーも男性なんだ。だから結婚もできない」と話しました。

両親はとても驚いていました。まず口火を切ったのは、母でした。「お前がそうなのは知っていたよ」「え？　なんで？」「お前の座り方が女っぽいから、そうかなと思っていた。覚悟はできていたけど、改めて

言われるとショックだ」と言いました。

少し心の準備ができていた母に対して、父はまったくの寝耳に水状態。まず私のことを罵り始めました。「情けない。近所の人に顔向けできない。2度と実家に帰ってくるな!」と、思いつくだけの言葉で私を責めました。私としては父のその反応は想定内だったので、そうかそうかと反論せずに聞いていました。そのタイミングで弟が帰宅。長男のカミングアウトが受け入れられない父に対して、「シゲがゲイであろうかなだろうが、人に迷惑をかけるわけではない。受け入れてやれよ!」と父に言ってくれました。

そのあと父は、ひどく落ち込みました。それを見て私は「そんなに怒ったり落ち込んだりするってことは、何か俺にやって欲しかったことがあるの?」「ある!」「それは何?」しばらく黙り込んだ後に父は「長男の

孫が抱きたかった」と。私は「申し訳ないけど、それはできない。その代わり旅行に連れて行ったり、おいしいご飯を食べに連れていくことはできるよ。それで勘弁してくれ

ないかな」と言いました。すると父は「そんなものいらねえ!!」と言って、2階の寝室に上がってしまいました。

翌日、元日。寝室から居間に降りてきた父と、私は普通にあいさつをしました。父も、カミングアウトについて話を蒸し返すことはありませんでした。

実家帰省が終わり、私がそのとき働いていた地方へ帰る日になりました。玄関を出ようとすると父が「これを持っていけ」と、何かが入ったビニール袋を渡してくれました。中に入っていたのは、父が畑で育てた野菜でした。父なりの不器用な優しさに触れたお正月でした。

今は、時々父から電話がかかってきます。「シゲ、畑で大根が取れたから家に帰って来い」「いや、忙しいから帰れない」父は少ししょんぼりします。

数日後、また父から電話がかかってきます。「シゲ、畑でとれた大根を煮たから家に帰って来い」「わかった、帰る」

忙しい毎日ですが、なるべく父と母に会いに実家に帰るようにしています。

第4回

2度と実家に帰ってくるな！ 長男のカミングアウトと家族

[鳥取県米子市立尚徳中学校] (下)

生徒も教師も学ぶものが多かった 「LGBT に関する学習」の取り組み

2年生の人権学習の一環として、2016年からLGBTに関する学習をスタートさせた鳥取県米子市立尚徳中学校。実践校の視察から始まり、LGBT支援団体のメンバーに話を聞いたり助言を仰いだりして、教師たちも学びながら授業計画をつくっていったという。そしていよいよ学習がスタートした。生徒たちの反応はどうだったのだろうか。

少数派であることを体感する

「男らしさって女らしさって何だろう？」学級活動として行われた2年生のLGBTに関する最初の学習は、担任教諭のこんな問いかけから始まった。

「男らしい人は身長の高い人」「字が汚い人は男らしいと思う」「女らしい人はやさしい人、かわいらしい人」。生徒たちは各班ごとに「男らしさ」「女らしさ」について意見を出し合った。

でも背の高い女性もいるし、字の汚い女性もいる。やさしくてかわいらしい男性もいるなあ……みんなで話し合ううちに、生徒たちは「らしさ」の線引きが実は一人ひとり違っていて、あいまいであることに気づき始めたようだ。

「少数派（マイノリティ）」についても考えた。

「みんなは目玉焼を食べるときは何をかけて食べる？ 醤油をかける人は？」教師の問いかけに、生徒たちは「はい」「はい」「はい」と元気よく手を挙げる。

目玉焼にかける調味料は、ほかにもソース派もいれば、塩派もいる。しかし、マヨネーズ派、ケチャップ派は少なく、数人がおずおずと挙手をする。

「少数派は手を挙げにくいよね。少数派の人は手を挙げたときにどんな気持ちだった？」

「醤油派だ」「ソース派だ」と笑っていた生徒たちも、次第に真顔になり担任の話に引き込まれていった。

生徒たちの変化

LGBTに関する学習は、最初の2回は、クラス担任が学級活動として行った。テーマは「マイノリティ

米子市立尚徳中学校

校長 長尾 修

生徒数 282名 職員数 32名

(2018年5月1日現在)



授業の様子

について考える」「性について考えよう」である。

「最初の授業はやはり緊張しました」と2年担任の足立登教諭が語る。

LGBTに関する学習は教師たちにとっても初めての取り組み。この日のためにLGBTについて学んできたし、生徒への発問のしかたを学年団でも話し合い準備を進めてきた。けれども、たとえばこちらの発問に対して生徒が思いがけない返答をすることもあるかもしれない。瞬間、瞬間で上手に答えを返せるだろうか——授業前はそんな不安もあったという。

しかし、その不安は杞憂に終わったようだ。

「授業中の生徒たちの反応もよく、感想文を読む限り授業を通して自分たちの考える『ふつう』が絶対ではないということを感じとってくれたようです」と足立教諭。

第3次、第4次の学習は、LGBT支援団体の代表者をそれぞれゲストティーチャーとして招いた。心の

こもった話に、講演後は生徒たちの学びがぐっと深まった印象があるという。

かつてはふざけて友達に対して「お前オネエじゃない？」とか「お前オカマかよ」など、からかう姿が見受けられたそうだが、講演を聞いた後はそうした光景がピタッと見られなくなったという。

教師自身も大きな学びとなった

LGBTに関する学習の取り組みは、生徒だけでなく教師たちにとっても深い学びがあったようだ。

同じく2年生担任の山田彰教諭は「これまでさまざまな人権教育をしてきましたが、LGBTに関する学習は私自身大きな学びになりました」と語る。

「学ぶことによって自分も変わっていく——今回の取り組みでそんな気持ちにさせてもらいました。そのことをゲストティーチャーに伝えると『そんなふうにして意欲的に授業をしてくださってうれしいです。教育の力はすごい。教育は世界を変える力があります』と言ってくださいました。その言葉を聞いて、あらためて取り組んでよかった。教師としてやりがいを感じました」(山田教諭)。

多様性を認めると、学校の集団生活で守らなければならないことが崩れるような錯覚に陥りがちだが、そうではないと山田教諭は言う。

「一人ひとりが違ってあたりまえという前提があつてこそ、みんなが一つのことに向かって取り組めばすごいことができるのだと思います。LGBTの学びの中で人は違ってあたりまえということに改めて気づき考えさせられました」(山田教諭)。

学校が社会に向けて発信していく側に

初めての試みで、前例が少ないために苦労もあったが、人権教育主任の岡田誠一教諭の熱い思いが伝わって、2年団が一丸となって授業に取り組んだ。さらに上司の理解も大きな原動力になったという。

人権教育主任の岡田誠一教諭は「視察に行った実践校の愛媛県西条市の丹原東中学校は、生徒たちが地域にどんどん出向いて行って、自分たちが学んだことを語っていくという活動をしていました。本校も丹原東中学校のように発信していく側になればいいと考えています。また、どんな人権教育もそうですが、LGBTに関する学びもまた小学生の段階から知っておいたほうがいいのではないか。中学ではもう一歩踏

み込んで、結婚や遺産相続の問題など、性的マイノリティの方たちが社会で直面する不合理な差別について学べるとよいのではないかと考えています」。

「本校は比較的小・中連携が進んでいる校区です。LGBTに関する学習も小、中で連携できるといい。そうして、誰もが多様性を認め合う社会の実現につなげられるといいですね」と岡田教諭は今後の学びの広がり进行を期待する。

【講演会の感想】

- 今日、講演を聴いて初めて知ったことがたくさんありました。たとえば同性愛の方々みんながテレビに出ているタレントのように人前に出たいと思っているわけではないということです。私の中で当たり前と思っていたイメージとは結構違って、間違った知識を持っていたと知ることができました。～中略～正しく学んだ私たちがどう広めていくかにはすごく責任があると思うし、自分がこれを踏まえてどう動いていくのかにも責任があると思うので、学習したことをいかすためにもこれから自分がどうすべきか考えていきます。(女子)
 - 今日お話を聞いて「ホモ」などと差別用語を言うことや「カミングアウト」はもとは「カミング・オブ・ザ・クローゼット」という言葉からで、いろいろな意味があるということを初めて知りました。体験談を聞いていると、カミングアウトのときの親との関係などいろいろなことがあり大変だなと思いました。大変になるということは、昔からの偏見や普通を求める社会が原因だと思うので「性」にもいろいろな人がいることをみんなが理解し、尊重していかなければならないと思いました。そしてよい方向にいかせるようになっていこうと思いました。(男子)
 - 私は今までテレビなどを見て「オカマだ、オネエだ」などと言っていたけれど、あまり意味を知りませんでした。でも学習を通して私が今まで使っていた言葉が差別用語だと知りました。私はもう使わないようにしようと思いました。
- 講演のお話の中で、親にカミングアウトするときに自分は捨てられると覚悟して打ち明けたと言っていて、とても勇気のあることなのにすごいなと思いました。～中略～「みんな違ってみんないい」という言葉を聞いて、これをみんなが考えて自分らしく生きることによって差別は減ると思いました。
- 私はこれからの人権学習でもしっかり考えて、私たちの世代からでも同性同士が結婚できないという考え方を変えていきたいです。今正しいと思っている言葉が本当に正しいかどうかを考えて行動していきたいです。(女子)

(取材・文 エム・シー・プレス 中出三重)

注意喚起の難しさ

国内で梅毒症例の報告が急激に増えている。HIV/エイズを除けば、性感染症関係の知識に極めて乏しい私のような者にまで、このことが話題として伝えられるようになったのは、2年ほど前だっただろうか。

もちろん、それ以前に増加傾向は把握され、専門家による注意喚起もなされていたと思う。だが、世の中に情報と認識が共有されるようになるには、若干の時間がかかる。そうした時差を埋め、情報の落差を解消していくことは、保健分野の専門家が担うべき（あるいは、担いうる）重要な役割のひとつだろう。

日本性感染症学会の公式サイトには、この春からトップページに《ストップ！梅毒》というバナーが掲載されている。梅毒報告の急増という「非常事態」に際し、日本性感染症学会・日本感染症学会・日本化学療法学会・日本環境感染学会・日本臨床微生物学会の5学会が協力してプロジェクトを立ち上げ、キャンペーンを展開しているのだ。

バナーをクリックすると、プロジェクトリーダー（日本性感染症学会理事長）のあいさつとともに、『国民の皆さんに向けた私たちのメッセージ』と『リーフレット』の2つの文書が紹介されたページに跳ぶ。

http://jssti.umin.jp/prevention/index_syphilis.html

まず、『メッセージ』を開いた。『梅毒の増加に直面して：解説と提言』というタイトルで、以下の6項目が分かりやすく説明されている。

- ①梅毒とはどんな病気か、②最近5年間の増加傾向、③症状、④診断法、⑤治療、⑥感染予防

《2000年から2012年までは年間500～800人台を推移していましたが、2013年に1200人を突破し、以降、年々急増し、2017年には5820人に達しています。5年間で6.7倍に増えたわけです》（最近5年間の増加傾向から）

過去の記録を見れば、戦後の『1949年には日本で年間17万6千人余りの患者が発生した』という。

ただし、『この頃から、特効薬である抗生物質ペニシリンが実用化・普及し、10年ぐらいの間に激減』

する。戦後間もない時期と比べれば、現在の報告数はかなり少ない。それでも最近5年間の増加傾向には「危機」の意識をもって対応すべきだろう。最後に掲載されているグラフや症例写真を除けば、解説は2ページ余りの比較的、短い文章なので、皆さんにもこの機会にぜひ読んでいただきたい。

ところが、次にリーフレットを開くと、『増えていきます。梅毒っていう病気を知っていますか』という赤色の見出しの下に3枚の症例写真が大きく掲載されていた。嫌でもその写真が目立つ。『解説と提言』では、ずっと後ろに控え目な感じで載っていたのに、同じ写真でも扱いや大きさによって印象が大きく異なるということに改めて驚く。

エイズの流行の初期には、典型的な症状の一つとされた皮膚がんのアップや衰弱した患者さんの写真などを強調するあまり、啓発のキャンペーンが逆に社会的な恐怖や不安、困難な病気に直面する人への忌避感などを増幅させてしまう事態を招いた。

そうした苦い経験は様々な国で報告されているし、報道のあり方を深く反省しなければならなかった記憶は、新聞記者だった私にも実はある。

HIV/エイズと梅毒では事情が異なるのだろうか。エイズ対策にも詳しい旧知の医師に「ちょっとまずいのでは」と尋ねたら、「でも、米国のCDC（疾病予防管理センター）も同じような扱いですよ」と梅毒対策の冊子を紹介してくれた。

そういうものなのかと思いつつ、教えてもらったURLでPDF版を見ると、実はそれは医療提供者向けのポケットガイドだった。用途がやや異なる。

一般配布用のファクトシートや冊子では、メインの写真は人物ないしは人と人との関係であり、症例写真は後ろの方に小さく掲載されている。個人的にはそうした扱いが妥当ではないかとも感じたが、医療の現場で性感染症対策にあたる専門家にはまた、異なる見解があるのかもしれない。可能ならばキャンペーンの中で、こうした点も検討課題になることを期待したい。

BOOK GUIDE

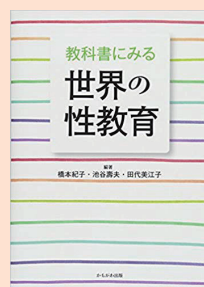
今月のブックガイド

大きく遅れをとる日本

書名のとおり、主に教科書に記された内容から世界各国の性教育の現状について概観を得ることができる。取り上げられている国は、オランダ、フィンランド、フランス、ドイツ、イギリス、オーストラリア、中国、韓国、そして日本。それぞれの国の性に関わる事柄、すなわちジェンダーギャップ指数や子育て支援、歴史等についても各章の冒頭で簡単に説明がなされていて、国によって異なる事情や課題の中で、いかに工夫して性教育が行われているかをわかりやすくまとめている。各国の性教育を知ることで、日本の性教育をより良いものにアップデートしていこうというのが一冊を通しての狙いであるようだ。

筆者は昨夏、関西性教育研修セミナー主催の「フィンランド・スタディツアー」に参加し、フィンランドの性教育について学んできた。フィンランドでは性教育が義務化されており、健康教育、生物学、宗教、倫理学、また特別教育など、教科をまたいで横断的な教育が行われているとのことだった。教員は自治体の公費で外部機関の専門講習を受けられるなど手厚い対策がなされている。生徒が放課後に自由に利用できるユースセンターも設備が充実しているだけでなく、子どもの自主性、自律性を重んじる運営がされていて、日本とのあまりの違いに瞠目させられた。

しかし、そのような素晴らしいフィンランドの性教育も、決して一朝一夕に築かれたものではないことが本書を読むとわかる。1970年に性教育が必修となって以降、その内容も継続的に改善されてきたが、90年代半ばには経済不況から健康と社会サービスのための財源が縮減され、性教育の量と質が低下し、結果、若者の中絶件数やクラミジア感染者数の上昇を招いたのだという。性教育の質が劇的に改善されたの



教科書にみる 世界の性教育

橋本紀子・池谷壽夫・田代美江子
編著
かもがわ出版
定価 2000 円＋税

は、教育課程基準が改訂された2006年以降だ。その後、2016年にも改訂が実施されている。

フィンランドに限らず、本書に紹介されているヨーロッパ各国の性教育について読み進んでいくと、その教育内容の詳細さ、豊かさ、深さに驚き、我が国を顧みてため息をつきたくなるばかりだが、どの国も昔から素晴らしい性教育を行ってきたわけではなく、ここ10～20年くらいの間に飛躍的に進化している。それには、2009年にユネスコが中心となって開発した『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』、2010年にWHOが発行した『ヨーロッパにおけるセクシュアリティ教育スタンダード』の影響が大きいようだ。これらの国際的なガイダンスにもとづいて性教育のプログラムを組むことで、子どもたちの性の権利を保障している。また、こうしたヨーロッパの動向は、徐々にアジア諸国にも波及しつつあるという。

ところが日本は、上記のような国際的な流れからまったく取り残されている。本書に紹介されている教科書も、ヨーロッパとは逆にどんどん内容が後退しており、筆者は「これでは何も教えていないのほとんど変わらないな」との感想を抱いた。2002年前後から始まった性教育バッシングの影響が今もまだ残っているのだ。今年の春には、かつて都立七生養護学校の性教育を攻撃した都議会議員が、足立区の中学校の性教育をバッシングするということが起こった。

「性の権利として、乳幼児期から高齢期にいたるまで生涯にわたって性教育・性の学習が保障されること、また、すべての子どもにその機会が保障されるためには学校の役割がきわめて重要であること、包括的性教育の基盤としてジェンダー平等と多様性の理解が不可欠であることは、国際的には常識となっているのです」。本書の「はじめに」に記された、この国際的な常識が、日本の常識にもなる日はいつ来るだろうか。

(日本性科学連合事務局長 今福貴子)

全国性教育研究団体連絡協議会

▶▶ 8月9日(木) 13:00～19:00
8月10日(金) 9:30～15:50 ◀◀

第48回 全国性教育研究大会

第47回北海道性教育研究大会札幌大会

テーマ

「生きる力」を育む性教育を目指して
～学校と関係機関が課題を共有し、連携した性教育の実践～

プログラム

- 1日目**：13:00～13:50 **開会行事** 挨拶・祝辞・開催地報告・次期開催地挨拶
14:00～14:50 **基調講演** 「学校における性に関する指導の充実について(仮題)」横嶋剛(文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官)
15:00～16:30 **記念講演** 「性別違和の理解」池田官司(北海道文教大学教授)
17:00～19:00 **懇親会** ホテルライフォート札幌 17階「サラ」(会費5000円。参加自由)

2日目：9:30～12:00 **分科会**

「小学校における性教育の実践」 「中学校における性教育の実践」
「高等学校における性教育の実践」 「特別支援学級・学校における性教育の実践」
「性教育の課題について様々な立場からの取組」

13:15～15:45 **課題別講座**

「性教育を学校全体の教育活動として進めるために」
堀内比佐子(全国性教育研究団体連絡協議会事務局長)
「知っていますか?デートDV」
須藤陽子(札幌市市民文化局市民生活部男女共同参画室男女共同参画課課長)
「助産師が育む『性』と『いのち』の話」
高室典子(一般社団法人北海道助産師会会長)
「思春期の教育と医療の連携」
藤井美穂(カレスサッポロ時計台記念病院・女性総合診療センター)
シンポジウム「性的マイノリティについて」
司会・遠藤俊明(札幌医科大学産婦人科/時計台記念病院)

会場 ホテルライフォート札幌(北海道札幌市中央区南10条西1丁目 TEL 011-521-5211)

定員・締切 定員・締切/300名・平成30年6月29日(金) 締切(定員になり次第締切)

参加費・問い合わせ先等

参加費/両日参加：一般6000円、学生2000円、1日参加：一般3000円、学生2000円

主催/全国性教育研究団体連絡協議会、北海道性教育研究会

協賛/日本性教育協会 後援/内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか

問合せ先/札幌市立柏中学校内全国性教育研究大会・北海道性教育研究大会札幌大会事務局

TEL011-521-2341 FAX 011-521-2343

申込み先/ <http://he7.seikyoe.ne.jp/home/zenseiren/index.html> (「全性連」HPから新規申込) あるいは、

(株)近畿日本ツーリスト北海道札幌教育旅行支店 TEL011-281-5434 FAX011-251-7052



8月17日(金)～19日(日)



第37回 日本思春期学会総会・学術集会

先端科学の視点をふまえた思春期学の展開

— 自発性をはぐくむ —

學術集會內容

- 特別講演Ⅰ「なぜ今、産後ケアが必要か—少子高齢化社会におけるまちづくり—（仮）」
吉村 泰典（慶應義塾大学名誉教授、福島県立医科大学副学長）
 - 特別講演Ⅱ「若いお母さんに知ってもらいたい赤ちゃんの気持ち（仮）」
小西 行郎（赤ちゃん学会 理事長、同志社大学赤ちゃん学研究センター 教授）
 - 記念講演「Advanced Molecular Reproductive Endocrinology in Adolescent Medicine（仮）」
Richard Ivell（Special Joint Professor, School of Biosciences, University of Nottingham, UK）
 - 基調講演「『思春期学』編集担当から見た日本思春期学会の歩み」
高木 耕一郎（東京女子医科大学東医療センター 教授）
 - 教育講演「超微細画像システム（8K パネル）の開発とその応用（仮）」
千葉 敏雄（カイロス株式会社 代表）
- ほか特別企画、シンポジウムなど

会 場 一橋大学一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術センター 2F）

参加費・問合せ先等

参加費：学術集会〔抄録集代（3,000 円）は含まない〕事前：正会員 8,000 円（当日 10,000 円） 非会員 8,000 円（当日・一日につき 5,000 円）
学生（高校生以上）3,000 円 思春期保健相談士 5,000 円（当日 10,000 円） ※懇親会 5,000 円（当日 6,000 円）

事務局：第37回日本思春期学会総会・学術集会 運営事務局 一般社団法人アカデミアサポート内

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-24-7-920 TEL : 03-5312-7686 FAX : 03-5312-7687 Email : jsa2018@academiasupport.org

9月1日(土) 13:30~16:00



第9 回世界性の健康デー記念講演@青森

北東北性教育研修セミナー 2018 夏

より安全に、より健康に。セックスワークの現場から

講師

要友紀子（かなめ・ゆきこ）SWASH 代表

1976 年生まれ。セックスワーカーとして働く人たちが安全・健康に働けることを目指して活動するグループ SWASH (Sex Work And Sexual Health: スウォッシュ) で 1999 年から活動。主な著作に『風俗嬢意識調査～126 人の職業意識～』(水島希との共著・ポット出版、2005 年)、『売る売らないはワタシが決める』(共著・ポット出版、2000 年)、『性を再考する』(共著・青弓社、2003 年) ほか。2018 年夏頃発売予定『現場から考えるセックスワーク・スタディーズ(仮)』(SWASH 編著、日本評論社)。

会 場 アピオあおもり 大研修室1（青森市中央 3-17-1）

参加費・申込み先等

◇参加費：1000 円（25 歳未満 500 円）

◆主 催：北東北性教育研修セミナー実行委員会 ◆協 賛：日本性教育協会

◇**申込先**：rc-net@goo.jp へメール、または郵送で青森県青森市安方 1-3-24 北東北性教育研修セミナー実行委員会へ
氏名／連絡先／所属先（ある場合）を明記して。

9/2 (日)

10:00~16:30

第9回世界性の健康デー記念イベント 2018 in 東京 東京性教育研修セミナー 2018 夏

Sexual Health & Sexual Rights are FUNDAMENTAL! For well-being
性の健康と性の権利は健やかに暮らす基本です!

内 容

★「秋の Sexual Health 文化祭」(10:00 ~ 16:00) 会場 3F

- ・グッズ展示、ゲームコーナーなど、性にまつわる活動をする人たちによるブース出展

★「ディスカッション『性の権利宣言』を知っていますか?」(13:30 ~ 16:30) 会場 2F ホール

- ・「性の権利宣言」とは

講師：早乙女智子 (WAS 学術委員会委員、主婦会館クリニック産婦人科、世界性の健康デー東京大会実行委員長)

- ・街頭インタビュー動画上映

- ・会場とのディスカッション (モデレーター：Link-R 代表・柳田正芳、主婦会館クリニック産婦人科・早乙女智子ほか)

会 場 ルークホール (東京都新宿区四谷 1-7 持田製薬本社ビル内)

参加費・問い合わせ先等

参加費／一般 1,500 円 学生 1,000 円 (学生証持参) ※ 18 歳未満の人 (18 歳になった高校生含む) は、保護者同伴のこと。

定 員／150 名 締 切／8 月 25 日 (当日参加は残席次第のため、事前申し込みをお願いします)

主 催／世界性の健康デー東京大会実行委員会 協賛／日本性教育協会

問合せ・申込み先／<http://wshd.jp/tokyo2018regi>

9/22 (土)

13:00~17:00

第19回日本性科学連合(JFS)性科学セミナー

今こそ活かそう! 性科学の知識

内 容

- ①「性科学の知識を駆使して悩みを解決する」北村 邦夫 (一般社団法人日本家族計画協会) JFPA
- ②「知識は力になる」正確な性の知識を学校現場にどのように伝えていくか」秋元 義弘 (岩手県立二戸病院 産婦人科 / 臨床検査科) JSA
- ③「やまとことばの中の性」早乙女 智子 (京都大学大学院 (医学研究科客員研究員)) JASE
- ④「梅毒について (仮)」石地 尚興 (慈恵医科大学 皮膚科学) JSSTI
- ⑤「陰毛脱毛の捉え方と性」丹羽 咲江 (咲江レディースクリニック) JSSS
- ⑥「知ってる? 膣内射精障害～大規模インターネット調査の結果を交えて～」小堀 善友 (獨協医科大学 埼玉医療センター 泌尿器科 / リプロダクションセンター) JSSM ほか

会 場

中日パレス
(名古屋市中区栄 4-1-1 中日ビル 6 階)

参加費・問い合わせ先等

参加費／3,000 円 (学生 1,000 円)、性科学セミナー + 日本性科学会学術集会 (22 日・23 日両日参加) 7,000 円 (学生 2,000 円)、

性科学セミナー + 日本性科学会学術集会合同懇親会 (22 日 17:30 ~) 3,000 円

大会事務局／エスエル医療グループ すぎやまレディースクリニック (〒460-0004 愛知県名古屋市中区新栄町 1-3 日丸名古屋ビル 3 階
TEL052-971-0930 FAX052-971-0935)

問合せ先／日本性科学連合 (JFS) 事務局 (〒113 - 0033 東京都文京区本郷 3-2-3-4F 日本性科学会内)

TEL : 080-1242-5025 FAX : 03-3396-8226 E-mail : info@jfs1996.jp URL : <http://www.jfs1996.jp>

※翌23日(日)は同会場にて第38回日本性科学会学術集会「次世代につなぐ性科学」が開催されます。

関西性教育研修セミナー 10 周年記念誌

性について、語る、学ぶ、考える



昨今は、性教育・性科学の世界にも新しい風が吹きつつある。性教育をめぐる5W 1H（誰が、何を、誰に、いつ、どこで、どのように教えるのか）には、異なる価値観の対立が伴うがゆえに、時として激しいバッシングに見舞われることもある。同時代を生きる古い仲間や新しい仲間とのつながりを大切にしつつ、性教育を次世代につなぐために自分たちにできることとは何かを常に問い続けてゆきたい。

本書は、関西性教育研修セミナーの10年間の取り組みをまとめるとともに、セミナー登壇者の何人かをお願いし、現在の性の課題と今後の展望について執筆いただいた。さまざまな現場や経験に基づくバリエーションある報告は、まさに性の幅広い側面を示している。

- 編集／関西性教育研修セミナー実行委員会
- 発行／日本性教育協会
- A4判・ソフトカバー 128頁
- 頒価 800円

主な目次

性暴力

教育現場における性暴力被害への支援と課題／野坂祐子
性暴力の「理解」と「治療教育」を求めて／藤岡淳子
規定される性、聞こえない声。／岡田実穂
資料

HIV / AIDS

記者から見たエイズ対策／宮田一雄
「ちいさな学校」の経験／ブブ・ド・ラ・マドレーヌ
HIV / エイズについての医療現場からのメッセージ／白野倫徳
HIV と性の健康／生島 嗣
資料

性の多様性

「語る」社会か「語らなくていい」社会か／土肥いつき
性別違和と子どもたち／康 純

「性」について考えること：西から東、そして北東北へ／宇佐美翔子
「性の多様性」と共生する社会に向けて／東 優子
資料

性教育

30年の性教育の実践／秋山繁治
知的障がいのある生徒への性の指導と支援／池川典子
LGBTを排除しない性教育のあり方／東 優子
資料

性と社会

社会は性に蓋をかぶせる／池上千寿子
「死にたいと思いつつも、助けてほしい」／渋谷哲也
二人の性科学者とNature vs. Nurture 論争／東 優子
性科学／教育の過去・現在・未来／ミルトン・ダイヤモンド
資料

◆本書は JASE ホームページ <http://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。

または、Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478 までお申し込みください。